



平成 20 年 11 月 14 日

各 位

東京都新宿区西新宿一丁目 25 番 1 号

株式会社 B B H

(URL <http://www.bbank.co.jp>)

代表者名 代表取締役社長 田原 弘之

(JASDAQ コード番号:3719)

問合せ先 管理本部長 齊藤 茂行

電話番号:03-3544-6631

特別損失の計上及び

平成 20 年 12 月期通期（連結・個別）の業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり、特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成20年12月期（平成20年1月1日～平成20年12月31日）の業績予想について、平成20年8月15日付当社「平成20年12月期中間決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 特別損失の発生理由

1) 前払費用償却

子会社（株式会社ジェクシードコンサルティング）において、取引先に対して契約前払金を支払っていましたが、株式会社ジェクシードコンサルティングの当該取引先との交渉の中で、当該前払金にかかる役務の提供を受ける時期が延期となり、当該役務の提供の確実性が低下した事から105百万円の特別損失を計上する見通しです。

2) 臨時償却

子会社（株式会社ジェクシードコンサルティング）において、固定資産に計上の社内基幹システム68百万円について、システムの陳腐化が進んだことから、期末にて全額償却する見通しです。

2. 平成 20 年 12 月期連結業績予想の修正について（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|------------------|-------|------|------|-------|
| 前回発表予想 (A) | 2,034 | △44 | △6 | △52 |
| 今回発表予想 (B) | 1,809 | △281 | △270 | △486 |
| 増減額 (B-A) | △225 | △237 | △264 | △433 |
| 増減率 (%) | △11.1 | — | — | — |
| (ご参考) | | | | |
| 前期実績 (平成19年12月期) | 4,412 | △212 | △194 | △606 |

3. 平成20年12月期個別業績予想の修正（平成20年1月1日～平成20年12月31日）

（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----------------|-----|------|------|-------|
| 前回発表予想（A） | 189 | △140 | △127 | △140 |
| 今回発表予想（B） | 189 | △215 | △75 | △79 |
| 増減額（B-A） | 0 | △74 | 51 | 61 |
| 増減率（%） | 0.2 | — | — | — |
| （ご参考） | | | | |
| 前期実績（平成19年12月期） | 848 | △274 | △273 | △356 |

4. 修正の内容

平成20年12月期の連結業績予想につきましては、売上高では前回予想では2,034百万円としておりましたが、1,809百万円（前期4,412百万円）に下方修正いたします。内部統制対応支援業務など一部業務については、上場会社を中心とする内部統制の導入時期という追い風を受けて堅調であったものの、当社グループ全体としては、景気低迷による影響は大きく、平成20年12月期「中間決算短信」において掲げた施策の進捗も遅れていることから、下方修正をいたします。

具体的には、システムコンサルティング分野においては、大型案件のみならず、中堅顧客層への拡大や、外注依存をおさえて社内のコンサルタントの稼働率を高めることで売上の底上げを図ることを見込んでおりましたが、稼働率については、改善が見られる一方で昨今の市況の悪化による当社の取引先での投資抑制の影響を受けて、開始している案件の中断および交渉中の案件がなくなってしまった事と、新規開拓の進捗の遅れにより当初予想を下回る見込みです。

営業利益および経常利益につきましては、社内営業体制の見直しや外注依存率の低減を行い、回復の兆しが見えておりますが、これまでの外注先との契約を巻き直す交渉等で時間を要していることから、売上原価が依然として高止まりしていることに加え、ストックオプションの発行による株式報酬費用76百万円も発生したことから、前回予想の営業損失44百万円、経常損失6百万円に対して、営業損失281百万円（前期212百万円）、経常損失270百万円（前期194百万円）を見込んでおります。

当期純損失については、上記の特別損失の他、繰延税金資産取崩24百万円を法人税等調整額に計上することから、前回予想の52百万円から486百万円（前期606百万円）となる見込みです。

平成20年12月期の個別業績予想につきましては、売上高は、子会社からのロイヤリティー収入であるため大幅な変動はありません。営業利益の減少理由につきましては、ストックオプションの費用化による株式報酬費用76百万円の計上により、営業損失215百万円（前期274百万円）を見込んでおります。経常損失については、配当収入が見込まれることから、経常損失75百万円（前期273百万円）を見込んでおります。したがって、当期純損失は前回予想の140百万円から79百万円（前期356百万円）となる見込みです。

（注）上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以上